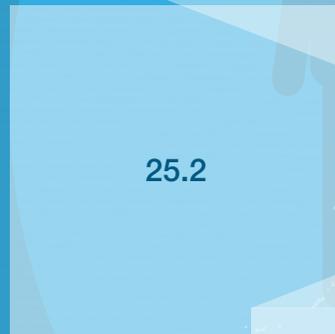


■ 既婚の子ども(男)との同居状況の推移

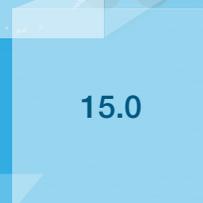
33.3%
1990年
日本



25.2%
2000年



15.0%
2010年



FAMILY

高齢者と家族

子どもと同居する高齢者は20年前の30%から15%に半減したが、依然として西欧諸国よりかなり高い

出典：内閣府 高齢者の生活と意識 第7回国際比較調査 2010年

1.4% 2000年
3.0% 2010年
アメリカ

2.6% 2000年
2.0% 2010年
ドイツ

1.8% 2000年
0.4% 2010年
スウェーデン



2 高齢者と家族

1 単身・夫婦のみで暮らす高齢者が一般的に

1989年には65歳以上のいる世帯は1,077万世帯で、全世帯に占める割合は約27%でした。そのうち、約41%は三世代同居の世帯で、単独世帯は約15%、夫婦のみの世帯は約21%と相対的に少ない状況でした。

2010年では65歳以上のいる世帯は2,071万世帯で、全世帯に占める割合は約43%となっています。このうち単独世帯が約24%、夫婦のみの世帯が約30%と、この両者で5割を超えています。

つまり20年くらい前までは、高齢者は三世代同居のケースが多かったのですが、現在では、単身又は夫婦で暮らすケースが多くなってきていることがわかります。

2 単身高齢者の4分の3は女性

女性の寿命が男性よりも長いことなどから、502万の高齢単独世帯の約72%にあたる360万世帯は女性で、男性は142万世帯です。女性の場合、年齢とともに暮らし方の変化が男性よりも顕著で、夫婦2人暮らしから夫の死亡などにより独居となったり、既婚の子どもと同居するケースも少なくありません。

3 今後の見通し

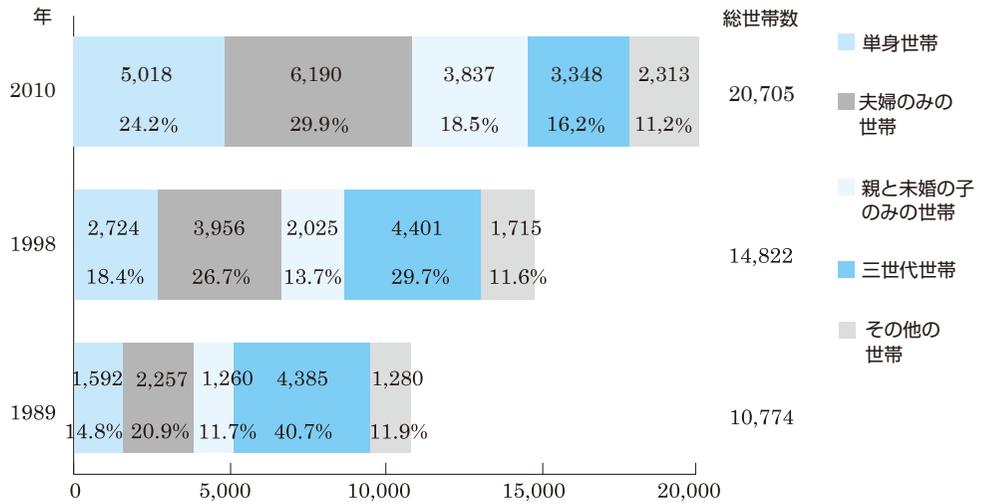
これからの高齢者の家族構成については、単独世帯の増加が見込まれています。

例えば、世帯主が65歳以上の世帯についてみれば、2010年時点で全1,568万世帯のうち、単独世帯が約30%、夫婦のみ世帯が約34%ですが、2030年頃には、その割合が逆転し、全1,903万世帯のうち、単独世帯が約38%、夫婦のみ世帯が約30%となるものと見込まれています。

日々の暮らしについては、自立した暮らしを基本としつつ、何かあったときの見守りや日常生活のちょっとしたサポートをどうするか、プライバシーに配慮しつつ高齢者の孤立をどのように防ぐかなど、住み慣れた地域で長く暮らすための様々な知恵を出していく必要があります。

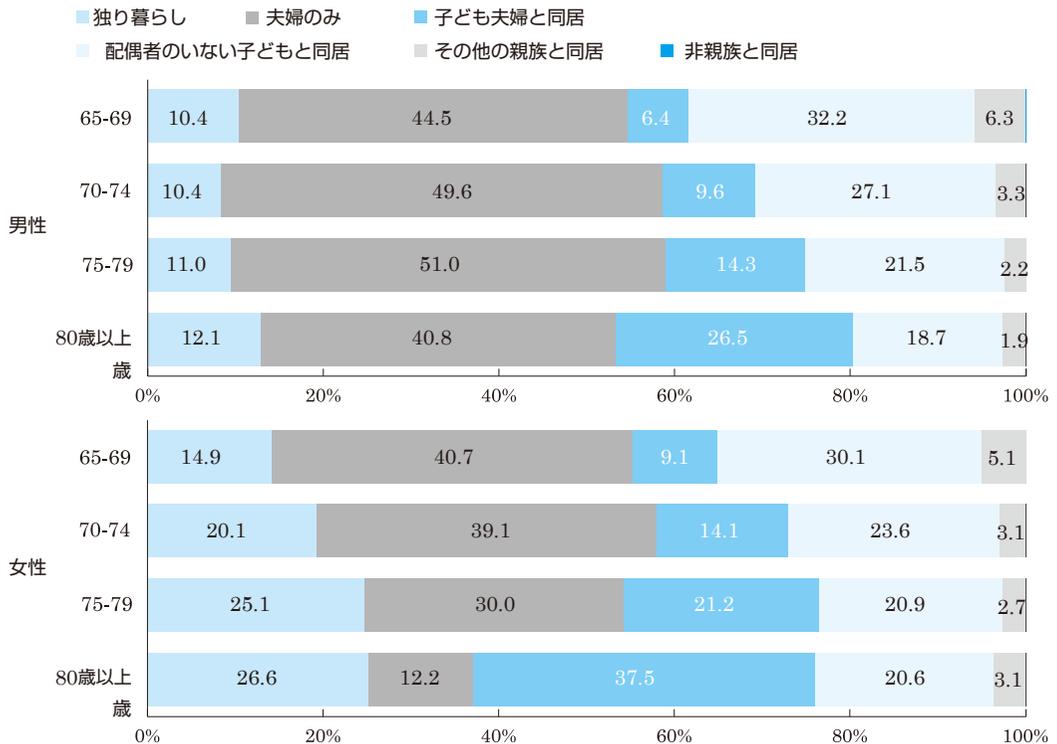
制度や行政の仕組みだけでなく、高齢者の暮らしに密接に関わる小売・サービス業や交通に関わる企業なども含め、高齢者の暮らしに対する発想の転換が求められています。

65歳以上の者のいる世帯数及び構成割合 (千世帯、%)



厚生労働省『国民生活基礎調査』(2010)

高齢者の年齢階級別にみた家族構成割合 (%)



厚生労働省『国民生活基礎調査』(2010)

